

平成19年12月

# 川口稚恵 学位論文審査要旨

主査	池口正英
副主査	紀川純三
同	寺川直樹

## 主論文

Simultaneous inhibition of the mitogen-activated protein kinase kinase and phosphatidylinositol 3'-kinase pathways enhances sensitivity to paclitaxel in ovarian carcinoma

(MAPKKおよびPI3Kシグナル伝達経路の同時阻害は上皮性卵巣癌に対するパクリタキセル感受性を増強する)

(著者：川口稚恵、板持広明、紀川純三、金森康展、大石徹郎、島田宗昭、佐藤慎也、下雅意るり、佐藤誠也、寺川直樹)

平成19年12月 Cancer Science 98巻 2002頁～2008頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は上皮性卵巣癌由来細胞株とヌードマウスの癌性腹膜炎モデルを用いて、MEKおよびPI3K阻害剤がPTX感受性に与える影響を検討した論文である。PTXとMEK阻害剤およびPI3K阻害剤の3剤の併用添加で、pMEKとpAkt蛋白発現は抑制され、細胞増殖抑制において相乗効果を認めた。これら3剤の併用投与はヌードマウスの平均生存期間を有意に延長した。従って、PTX感受性の増強にはMEKおよびPI3K経路の同時阻害が必要であることを明らかにした。

本研究は新知見に富むものであり、その結果は婦人科腫瘍学研究に貢献するとともに明らかに学術の水準を高めたものと認める。